

学校名	佐賀県立神埼高等学校		
1 前年度 評価結果の概要	・各評価項目において概ね目標を達成することができた。今年度より取り組み始めた「学びの時間」により、生徒は朝から落ち着いた教育環境の中で一日をスタートでき、学校生活を送ることができていた。この学びの時間の継続で、生徒の主体的な学びを促すことができるよう に内容の工夫を行う。 ・学力向上においては、生徒の多様な希望進路に応じた学力が育成できるよう、授業や教材の工夫と研修の充実に努める。 ・いじめ防止や特別支援教育に関しては、SCや外部機関の協力を得ながら、校内の協働・連携の体制強化により、組織的な対応ができた。生徒・教職員ともに安心・安全な学校づくりのため、次年度も体制の維持・向上に努める。 ・教職員の働き方改革の推進については、達成状況が十分とはいえない。業務軽減、負担軽減のために、更に学校業務全体の効率化を図る。 ・SAGAコラボレーション・スクール事業最終年度として総合的な探究の時間の体験活動は前進したが、今後も学校運営協議会、地域、企業等の協力を得ながらさらなる活動や連携の形を模索したい。将来に向けた生徒の貴重な学びとなるよう、活動内容の一層の充実を図り、さらなる学校の魅力化つなげていきたい。		
3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ・普通科進学校で、自分の目標に向かって真剣に学び続けることができる生徒を求めます。 ・学校内外での活動（地域探究活動、学校行事、部活動、生徒会活動、ボランティア活動など）に一生懸命に取り組む生徒を求めます。 ・高校での探究的な学びを通して、将来は地域社会や国際社会に貢献できる人になりたいという意欲を持った生徒を求めます。	カリキュラム・ポリシー ・確かな学力と教養を育み、大学入試等の希望進路に対応します。 ・対話的で深い学びができるように、少人数授業や習熟度別授業及び選択制授業を実施します。 ・各教科の学習と総合的な探究の時間を連動させた「KANKO学」で、探究型の教育を推進します。	グラデュエーション・ポリシー ・持続可能な社会を支える、誠実で豊かな『人間性』を備えた人材を育成します。 ・幅広い知識と技能を基盤とした『課題解決力』『判断力』『表現力』を備えた人材を育成します。 ・グローバルな視野を持ち、地域社会に進んで貢献することができる『協調性』と『対話力』を備えた人材を育成します。

5 重点取組内容・成果指標				中間評価			
(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	中間評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		
●学力の向上	○教科指導の充実 ○家庭学習の充実	○生徒による授業評価で、基礎基本の定着や授業の理解が図れていると回答する生徒80%以上 ○「家庭学習を充実させるための効果的な学習課題やICTを活用した課題が提供されている」と回答する生徒80%以上	・学力と学習意欲を向上させる指導計画の作成と検証・見直しによる学習指導の充実 ・授業や考査・小テスト、評価活動に向けて必要な学習課題の提供 ・「学びの時間」を有効活用した振り返りと国英数の基礎基本の学習内容の定着 ・ICTの適切かつ積極的な活用と、Classiやスタディサプリなどの学習支援ソフトの有効活用を通した個々に応じた学習への取組の支援 ・職員相互における積極的な授業見学、「指導」から「主体的学びの支援」への移行 ・総合型選抜対策に早期から取り組む。小論文・面接対策として朝の学びの時間を活用。 ・考査範囲を集約し、2週間前には配布。	B	・基礎学力や意欲向上のため、個別面談・指導を充実させ、学習支援の工夫をする。 ・家庭学習時間の確保はアンケート結果で肯定的意見は生徒約55%、保護者30%から見ても不十分で、主体的な学習ができていない。家庭学習状況の把握と学習習慣の確立に努める。 ・「学びの時間」を使用した「国語・数学・英語」の基礎基本を問う小テストを定期的に行い、生徒の家庭学習の習慣づけを行うとともに、基礎基本の定着を図った。また、学習の振り返りや思考力を高める活動を行っている。 ・Classiの学習時間を記録する機能を使用し、学年ごとに日々の学習状況を生徒に発表し、学習意欲を高めた。 ・ICTを活用した効果的な学習課題の提供について、約90%の生徒が肯定的回答である。一方、学習支援ソフト活用には教員間の差があるため、研修を行うなど有効活用を進めたい。		
	●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「生徒会活動に主体的に取り組んでいる」と回答する生徒80%以上 ○「生徒の成長や自立を促し、支援することができている」と回答する教職員90%以上 ○問題行動を未然に防ぐ生徒の指導が行われていると回答する教職員85%以上		・ボランティアや自発的研修の参加の奨励と校外活動支援のためのClassi活用 ・クラス、学年、全学年による魅力ある教育活動の試行と実践 ・インターネットリテラシー育成のための防犯講話の年1回の実施 ・家庭学習時間調査後の担任による面談を実施 ・保健委員長や美化委員長を中心とした学校生活充実に向けた委員会の毎月の実施	A	・アンケート結果から80%以上の生徒が概ね主体的な生徒会活動が行われていると回答している。生徒会全体としてだけでなく、風紀委員長や美化委員長を中心とした活発な活動が行われ、特に校内美化のためにボランティアを募り、環境を整えるなどの取組もみられる。 ・様々なボランティアの依頼はClassiで案内し、多くの生徒が自主的に参加している。 ・地域との連携やICT活用により、各種講演会や進路ガイダンスを行っている。 ・人権・同和教育及び道徳教育における課題を整理し、人権尊重の姿勢を育む取り組みを引き続き学校全体で取り組むたい。 ・インターネットリテラシー育成のための防犯講話を実施できた。(6/9)
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「安心して学べる環境づくりができている」と回答する生徒90%以上 ○「いじめ防止について組織的な対応ができている」と回答する教職員90%以上		・管理職を含む関係職員による年5回以上の生徒情報交換会の開催 ・いじめの認知・覚知について迅速な対応の徹底 ・教職員が情報共有できる体制づくりと連携・協働 ・Classi等を利用した定期的な教育相談便りの発行と、サーバー内の生徒情報共有フォルダの活用。 ・生徒の状況観察、個人面談、年4回のアンケートによるいじめの予防と解決・解消 ・生徒会によるいじめ防止キャンペーンの実施と生徒が人権保護の意識を育む機会の創出	B	・生徒情報交換会は年内3回実施(予定含む)、3学期にも実施予定。 ・アンケート「いじめの無い、安心して過ごせる学校づくりができていると思いますか。」に対して9割弱がそう思っているが、「そう思わない」と回答している生徒の割合が昨年度から増え1割を超えたことに危機感を感じる。たとえ教師側がちよっとしたと思えることでもより迅速に組織的な対応が求められているのではないかと考える。 ・教育相談関係の生徒情報はサーバー内にフォルダを作成し、全職員で情報共有が可能である。 ・担任による定期的な個人面談を実施し、生徒理解に努めている。また、学年団で情報の共有を図ること で、問題行動を未然に防ぐことができている。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成する教育活動	★郷土の人材を活用した講演会等、各学年年間2回以上 ◎歴史的名所等の観光資源や教育資源を活用したボランティア活動やイベント企画など校外での実践を通し、郷土の魅力を発見し、愛着を感じると回答する生徒85%以上	・地域の現状と魅力を説明する講演会の実施 ・地域イベント、地域貢献活動に関するボランティア情報の生徒へ積極的提供 ・総合的な探究の時間やホームルーム活動、地域ボランティア活動を通した地域の現状把握と課題発見や解決の糸口を探る活動と郷土愛や道徳心の育成	B	・地域で活躍している方の講話を行うことで、地域の魅力発見についての理解を深めることができた。 ・「総合的な探究の時間」での「神埼まちめぐり」にグループで計画、準備、実践に意欲的に取り組み、地域連携者への礼状送付、クラス内での探究活動の報告と発表を行った。 ・「郷土に愛着を感じる」と回答した生徒は80%以上に達した。ボランティアなどを継続的に行うことで、さらに地域への愛着が湧くことにつながると思う。 ・情報モラルの育成については、講演会などを通じて繰り返し指導している。今後も続けていきたい。		

	●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	◎「目的意識を持ち、生き生きとした学校生活が送れている」と回答する生徒80%以上 ●生徒の交通事故を10件以下にする ○「朝食を摂って登校する」と回答する生徒90%以上	・学習時間を含む生活習慣アンケートの実施 ・交通安全の講演会実施と交通マナー指導の充実と徹底、および道路交通法の徹底 ・通学路危険個所の周知、毎朝登校指導による事故の未然防止 ・心身の健康と各種啓発活動とキャリアプランの実現 ・保健だよりの発行、健康診断だより、心身の健康に関する各種講演会の実施	A	・交通安全教室を5月に実施した。 ・生活習慣や安全に関する資質能力育成のため、アンケート実施や講演会を活用し、生徒の意識向上をさらに促す。 ・アンケート結果から生徒の90%以上が交通ルールを守り、安全を心がけていると回答している一方で、年度当初から登下校中の自転車と自動車の接触事故や未遂事故が起こったため、通学路危険個所の周知徹底を再度行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・出退勤システムの活用による時間外勤務管理 ・月2回以上の定時退勤実践 ・部活動休養日の設定と順守 ・行事の精選、業務の協働や効率化の推進 ・学校閉庁日の設定	B	・働き方改革が進んでいると回答する教職員は約21%にとどまっており、業務の削減に向けて引き続き努めていく必要がある。 ・学校閉庁日6日、定時退勤推進日、部活動休養日の設定は行っているが、大会等の振休取得を優先するため年次休暇取得が難しい状況にある。 ・業務の偏りが依然としてあるため、平準化や効率化に向けた工夫や改善が必要である。
	●特別支援教育の充実	○教育相談や特別支援教育の実施 ○安心・安全な学習環境づくりに向けた個人および多様な価値観の尊重	○教育相談体制や特別支援教育の研修が充実していると回答する教職員90%以上 ○自己有用感、自己肯定感が高まったと回答する生徒80%以上	・年5回以上の生徒情報交換会の開催 ・全教員が生徒情報を共有できる方策づくりと活用 ・入学時の教育相談研修の実施 ・スクールカウンセラーによるSOS研修と生徒理解のための職員研修の実施 ・定期的な教育相談便り発行 ・教職員への研究・講演会の情報提供	A	・年内に3回の生徒情報交換会を実施(予定含む)し、3学期にも実施を計画している。 ・スクールカウンセラーとの面談記録等は職員が閲覧できるフォルダに秘情報として保存。年度当初および折々に生徒情報の共有を図っている。 ・教育相談研修を入学時のオリエンテーションとして実施するとともに、スクールカウンセラーによる職員研修および生徒向けの「SOSの出し方」研修を実施した。 ・概ね順調に具体的取組は実践できている。診断はないが特性があるのではないかと思える生徒が数多くいる中で情報交換が有効で組織的に見守る姿勢はできている。スクリーンタイム依存が原因との症例もあり、そことの関連も視野に入れどのような対策を具体的にとれるか情報収集が必要であると考えている。 ・研修関係の案内は日報等で随時発信している。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						
重点取組				中間評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★総合的な探究の時間における地域との深い関わりおよび主体的な探究活動への取組 ○学校情報の積極的かつ細やかな発信 ○自己の可能性の伸長と発掘を通して、社会の発展に寄与したいと考える生徒の育成	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上 ★県外からの入学者数5人以上 ○「総合的な探究の時間の活動によって、対話力や協調性が高まった」と回答する生徒80%以上 ○「社会に関心を持ち、地域の抱える課題やその解決策について考えるようになった」と回答する生徒80%以上	・探究活動のテーマ選定・作成のための講話と社会の課題解決につながる深い学びの実践 ・総合的な学習の時間および全授業を通じた生徒同士の対話から自己の考えを深める活動への深化 ・「学びの時間」での社説を活用した取組による周囲の環境への関心を高める活動と学問研究を通じた生徒の社会との関わり方の模索への支援 ・年6回程度の「学校だより」発行、月2回程度のHP、Instagramの更新	B	・アンケート結果から80%以上の生徒が概ね学校生活に肯定的見方であるが、自分の学校を中学生に勧めることができる生徒は目標には至っていない。 ・探究活動、講演会、学びの時間での社説読解等で多様な意見に触れ、また、自分の意見の発表を通して、他者理解が深まる活動となっている。 ・学校の魅力発信のため、学校説明会、学校パンフレットの作成、SNSを使った外部への発信は計画的・定期的に進めることができている。今年は新コースの募集に関する取組も行った。 ・2年次の活動分野を変更し、生徒が自分の進路につながる分野を選択できるようにしたことで、より自主的に活動ができるようになった。アンケートから、総合的な探究の時間を通して地域の課題を考えたり、社会に対する視点が身についた生徒が増えた。しかし、保護者からの理解は低いため、生徒たちの取組を知ってもらう工夫が必要である。	
○主体的に学ぶ取組	○主体的な学びを促す取組の充実 ○学力を支える教養と学び続ける姿勢の育成	○生徒の主体的な学びにより、生徒自身の内面的な成長を促すことができていると回答する教職員80%以上 ○「学びの時間」が自己の成長につながっていると実感できる生徒80%以上 ○「目的意識を持ち、将来の進路に向かって努力できている」と回答する生徒80%以上	・全教科において基礎学力定着のための個に応じた学習指導 ・生徒の協同的な活動や取組による主体的に考える生徒育成のための支援 ・「学びの時間」の年間計画と有効運用による落ち着いた教育活動の提供 ・生徒の主体的努力を促す時機を捉えた進路講演会・講話、面談の実施	B	・「学びの時間」は、朝一番に校内が静かになる時間として、落ち着いた環境づくりに効果が高い。 ・希望制の早朝の補習を行ったり、動画配信サービスを利用するなどして、生徒一人一人の能力や将来の希望に応じた指導を行うことができている。 ・大学の教授や、本校卒業生、進路指導主事など、様々な立場からの講話を行い、生徒の将来への考えを深めさせることができている。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり